

愛知に住みたくなるBOOK

これを見ないで
住むとこ決めちゃっていいの？

インタビュー
編

2019年度版



～[東京在住の学生]×[愛知にUターンした社会人]座談会～

INTERVIEW | 01

Uターンする?しない? 実際にUターン就職した先輩に、 学生があれこれ聴きました。

こんにちは、愛知県出身の大学3年生、江口です。

地方出身の学生にとって「Uターン就職」は、迷う人も多いテーマですね。地元ではどんなふうに住んで仕事とプライベートが充実するのかな、学生時代の友達との関係はどうなるのかな…などなど、気になることをUターン就職した先輩に聴いてみました!



- 質問者 -



- お答えいただく方 -



江口さん[文系]

- ◎東京の大学3年生
- ◎愛知県出身

外国語学部で英語を専攻。これから就職活動を始めるにあたって、愛知に戻るか、東京に残るかとても迷っている。その理由の1つには、「愛知はものづくりのイメージが強いけど、文系女子が活躍できる会社ってあるのかな?」という不安が。

安井さん[理系]

- ◎東京の大学4年生
- ◎愛知県出身

工学部で自治体や民間企業での災害対策について研究中。大学卒業後は大学院へ進学し、その後の就職は地元・愛知県も視野に。同じ学部の先輩はゼネコンや鉄道関係への就職が多く、「自分もそうなるのかな」というイメージを抱いている。

竹下さん[理系]

- ◎株式会社ノリタケカンパニーリミテド1年目
- ◎愛知県出身

茨城県の大学院を卒業後、株式会社ノリタケカンパニーリミテドへ。入社を決め手は、女性が長く働くための環境づくりに積極的だったから。現在は、パソコンやスマートフォンなどで使われる電子部品の材料となる電子ペーストの研究・開発を行う部署に所属している。

木下さん[文系]

- ◎リンナイ株式会社2年目
- ◎愛知県出身

東京都内の大学を卒業後、リンナイ株式会社へ。東京での就職も検討したものの、愛知県の暮らしやすさに魅力を感じ、Uターン。営業推進室に所属し、リンナイの各種製品を販売店向けに説明・デモンストレーションするライフクリエイターとして活躍中。



Q.1

Uターン就職を決めた理由を教えてください。

安井:私は大学院に進学するので就職は少し先なのですが、東京に残るかUターンするかまだ決め切れていなくて…。地元で働こうと決めたポイントは何ですか？

木下:実は私、「絶対Uターンしたい!」という強い希望があったわけではなくて。就職活動を始めたときは、場所にこだわらずに探していました。ただ、私は東京の大学に通っていたので、東京の通勤ラッシュの過酷さを知っていて。ふと「これが毎日だとしんどいかも」と感じたのが大きなきっかけになりました。愛知だと、東京ほどハードな通勤ラッシュはないから(笑)。

安井:私も木下さんと同じで、東京の人の多さや通勤ラッシュにはちょっとうんざりしているというか…。確かに就職を考えるときには、やりがいや仕事の内容だけではなく、暮らしやすさや通勤のしやすさも考えた方が良さそうですね。

竹下:私は仕事を長く続けたかったので、最初から実家のある愛知での就職を希望していました。愛知は自動車産業も盛んですし、理系出身の私にとって、就職先の選択肢が東京と遜色ないほど幅広いと実感しました。だから、「愛知県に帰ってくることで希望の職種を諦める」ということもなく、前向きに就職活動ができましたね。

江口:確かに!私も就職活動の下調べをしていたら、カゴメやミツカンなど「えっ、この会社の本社も愛知だったの?」という企業が多かったです。

安井:愛知県出身だから、地元のことはよく知っているつもりだったけど、実はまだ知らないことも多い気がしてきました。ちなみに、就職活動が遠距離だと移動や日程調整が大変ではなかったですか？

木下:選考が進んでくると、試験や面接を愛知の本社で行う、ということがありますが、筆記試験や一次面接などは東京で行う企業も多いので、私の場合は想像より負担は少なかったですね。

Q.2

愛知で働くメリット・デメリット、女性の働きやすさは？

江口:お2人は実際に愛知で暮らして、どんなところにメリットを感じますか？

木下:やはり愛知は暮らしやすいなと思います。買い物をするときは名駅(名古屋駅周辺のこと)や栄が便利ですし、ちょっと足を延ばせば自然いっぱい山や海、離島にもすぐ出掛けられて、バランスが良い街だなと思います。

竹下:私が通っていた大学院の理系の友だちでも、東京や大阪ではなく「愛知県にある企業を選んで就職する」という人も多かったですよ。ものづくりが盛んで、世界的な企業も多い愛知ならではののかなと思います。

安井:逆に、愛知で働いてみて「首都圏で働けばよかったな」と後悔するときはありますか?ぜひ率直なご意見をお聴きしたいです!

木下:う〜ん…(考え中)。

竹下:何かあるかなあ…(考え中)。

安井:お2人もすぐ出てこないということは、あまりそう思わないということでしょうか(笑)。

木下:だと思えます(笑)。しいて言うなら、東京に比べたら電車の本数が少ない地域もあるので、「10分後にしか次の電車が来ない」と分かったら、その10分が長く感じる時が、たまにですがありますね(笑)。

安井:愛知も決して電車やバスは不便な方ではないけれど、東京と比べると確かにそういう面はあるかもしれません。でも東京より車のある生活がしやすいのは便利です。

江口:女性の働きやすさについてはどうですか?

竹下:私の部署内には、育児休業を取得して復帰された先輩がたくさんいます。職場のメンバーみんなが育児中のママにやさしくて、「早く帰りなよ〜」と声を掛けていたり、とてもいい雰囲気ですよ。自分がいつか結婚や出産をしても、ここならずっと働けそうだなと思っています。



Q.3

理系、文系の活躍の場の違いはある？

江口:私は日本の良いものを世界に発信できる仕事に就きたいと思っているのですが、愛知は自動車産業を始め、理系の人々が活躍できそうな企業が多く、文系出身の人が活躍できる企業が少ないようなイメージがあるのですが…。

木下:そんなことはないですよ。例えば、私が働くリンナイは一般的には理系のイメージが強いかもしれませんが…。

安井:そうですね。商品開発とか…!?

木下:もちろん、研究職や技術者になるには理系出身じゃないと難しいです。でも、企業には総務だったり、営業だったり、私のような文系出身者も活躍できる職種と働き方がいろいろあるんです。「理系だから・文系だからこの企業は難しいよね」というイメージだけで諦めないで〜と、就職活動を控えた皆さんに伝えたいです。

竹下:理系の私からすると、文系の人たちのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力はすごいなと感じます!社会に出ると、大勢の人の前で話したり、何かをわかりやすく説明したりする力はどの業界でも求められていて役立つので、そこは文系の人たちの大きな強みになると思いますよ。

Q.4

プライベートや友だち付き合いはどうですか？

江口:私は東京の大学に通っているのですが、首都圏に友だちがたくさんできました。Uターン就職したら、その友だちと疎遠になってしまうのが寂しいなと思っていて…。

木下:大丈夫!私は今でも大学時代の友だちとこまめに連絡を取り合っているし、距離が離れたことを理由に疎遠になるということはないと思っています。遊びに行く場所としての東京はとても楽しいと思うので、私が週末

に思い立って東京に出掛けることもあるし、中間地点の静岡に集合して遊んだりもしますし。

安井:愛知って日本の真ん中あたりにあるから、東京や大阪など、どこに行くにもアクセスが良いんですね。

木下:それに中部国際空港にもアクセスが良く、まとまったお休みのときには海外へ行くのにもスムーズなので、私もよく海外旅行しています(笑)。

江口:今日はお2人からリアルな体験談が伺えて安心しました!ありがとうございました!

AFTER TALK

安井:思っていた以上に愛知の魅力がたくさん聞けたね。私は工学部だから、将来はゼネコンや鉄道関係かなというイメージだったけど、1つの企業でも幅広い働き方ができてわかって。就職先を検討するときに、業界も働く場所も、もっと視野を広げてみよう!って思えたのは大きな収穫。イメージだけで動かず、情報を集めるのってやっぱり大事だね!

江口:私は、理系のイメージが強い企業のなかでも、総務や営業など、文系出身者がさまざまな働き方ができるとわかって、愛知県へのUターンに対してとても前向きになれました〜!



「愛知なら最近はじめたヨガも続けられそう(安井)」「私はレコードが趣味だから、ゆっくり聴く時間を持つのは嬉しいかも(江口)」

文 / 矢野裕子(広瀬企画)

構成 / 竹内葉子(トレスクリエイト)

写真 / 岩瀬有奈

愛知県での就活に
気になる情報をPick Up!



産業集積日本一

愛知は、製造品出荷額等が42年連続日本一。基幹産業である自動車や航空宇宙を始め、ロボット、繊維、陶磁器など様々なモノづくり産業が集積し、世界有数の産業集積地となっています。

出典:経済産業省「2019年工業統計調査」

家賃は 東京の6割以下

愛知は、民間賃貸住宅の面積あたり家賃水準が東京の6割以下(※名古屋市と東京都区部)。家賃が安いので、暮らしに余裕が生まれます。

出典:総務省統計局「小売物価統計調査(動向編)結果」(2018年)

旅行・行楽する人の割合が 全国1位

愛知は、旅行・行楽する人の割合が全国1位と、旅行・行楽に出掛ける人が多いという特徴があります。

出典:総務省統計局「平成28年社会生活基本調査結果」

趣味に使える 時間が多い

愛知は、有職女性の1日あたりの趣味・娯楽時間(平均)が全国2位。有職男性も全国4位と、趣味や娯楽の時間を大切にするライフスタイルとなっています。

出典:総務省統計局「平成28年社会生活基本調査結果」



「#一番住みたい愛知SNSフォトコンテスト2019」入賞作品

愛知の素敵なヒト・モノ・コト・パシヨの写真を投稿していただいたフォトコンテストの優秀作品をご紹介します!



スポット 部門



金賞

「クライマックス」

アカウント:@chagallmakoさん

《撮影場所》豊田市 拳母(ころも)神社

●受賞者コメント

三河地方三大祭りの一つである「拳母祭り」にて撮影しました。このお祭りの見どころは、山車の上から撒かれる紙吹雪です。赤・黄色・紫など色とりどりの紙吹雪が、まさに雪のように舞い落ち降り積もります。初めて伺いましたが、予想以上の紙吹雪の量に大変驚きました。しかもそれが近い距離で見物できるため、熱気がダイレクトに伝わり心動かされました。このようなお祭りは、他では見られないと思います。是非是非全国の方、世界の方に見ていただきたいと思いました。

●審査員コメント

青空に赤色の紙吹雪が舞う様子が躍動感がありとてもダイナミックで素敵な作品です。



銀賞

「万華鏡の世界」

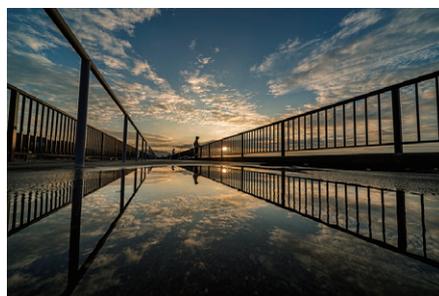
アカウント:@yu.sc.photoさん

《撮影場所》

西尾市 三河工芸ガラス美術館

●審査員コメント

とても幻想的な写真ですね。正面から素直に撮影しているのが良かったです。



銅賞

「釣り人と朝日の水溜まりリフレクション」

アカウント:@t.aru001さん

《撮影場所》

西尾市 吉良サンライズパーク

●審査員コメント

空の色、水溜まりに映ったリフレクション、釣り人、画角など、とてもかっこいいです。日の出の時間帯での撮影も効いていると思います。

招き猫賞



「流れ星をさがしに」

アカウント:@kazumi_je2016suisさん

《撮影場所》

北設楽郡設楽町

●審査員コメント

星空と車のテールランプの光がうまく融合させている意欲的な作品だと思います。



「夢の空間」

アカウント:@mi_sa_pipiさん

《撮影場所》常滑市 中部国際空港

FLIGHT OF DREAMS

●審査員コメント

色鮮やかな所も被写体の特徴をよく捉えていて良かったです。



「散魁(さんらん)」

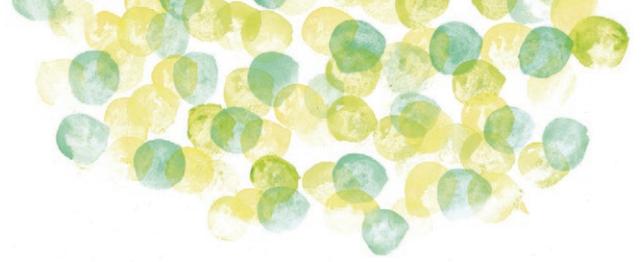
アカウント:@yyh_k17さん

《撮影場所》

犬山市 犬山城下町付近

●審査員コメント

幻想的な花火と綺麗にライトアップされた犬山城が融合している、迫力のある作品です。



地元へ転職。仕事・お金・結婚、どう変わる？ ～東京→愛知へUターンの場合～

社会人になってから次のステップを考えると、キャリアはもちろん、女性は結婚や将来の住環境など、いくつもの選択を意識しますよね。「でも、どの道を行けば自分らしくいられるの!?」。東京から愛知へUターン転職し、キャリアアップもプライベートの充実もかなえた2人に、お話を聞きました。



トヨタ自動車株式会社

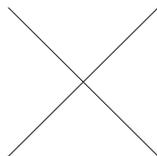
生田真希さん

1984年生まれ。愛知県出身。大学進学を機に上京し、バイオ系の学部・大学院を修了。出版社に入社し、医療系月刊誌やビジネス誌の記者として取材・執筆に携わる。将来に備えて愛知に戻ることを考え転職。2018年からトヨタ記念病院にて、病院広報として広報誌の制作や院内研修、CS向上のための各種施策の企画を担当。休日は夫とドライブしたり、名古屋市の池下などでお洒落な店を開拓するのが好きな過ごし方。

株式会社デルフィス

佐藤萌里子さん

1988年生まれ。岐阜県出身。中学校から大学までは愛知県名古屋で過ごす。大学卒業後は、東京で大手通信キャリアに勤務。スマートフォンや、付帯サービス、ブランドのコミュニケーション企画やCM制作に携わる。2017年から株式会社デルフィス名古屋支社で営業として勤務し、現在は地域に特化した広告宣伝やCSR領域を担当。楽しみは、気の置けない地元の友人たちとの食事会や、年に数回の海外旅行。



愛知にもあった、 自分のキャリアが生かせる仕事

——お2人とも愛知での勤務を希望して転職したのはなぜですか？

佐藤:私は中学校から大学まで名古屋で過ごしていたんですが、就職を機に、一度は東京に住んでみたくて上京しました。仕事が楽しかったので気付いたら5年が経っていたものの、東京では長く住むイメージができず、愛知勤務の可能性が高い会社への転職を考えたいです。

生田:私は高校まで名古屋で過ごして、大学進学で上京しました。出版社で医療系雑誌に7年携わってからビジネス雑誌に異動したんですが、仕事がハードになりストレスが大きくなったんです。また、30歳になった頃から周りが結婚して子どもを産み始めて、自分も仕事とプライベートの両面で将来どう過ごしていきたいかを考えるようになりました。そんな中、2018年の4月に大きな仕事をやり遂げて、頑張りの限界を迎えたいです(笑)。気持ちのリセットしたいと思って、愛知に戻って転職することにしました。

佐藤:初めての転職って正直不安ですよね。私は現在も携わっている業務領域は同じなもの、前職と現職では業界自体は大きく異なるので、今までの5年の経験がちゃんと他社で生かせるのかなと思っていました。でも、今の会社の人たちは皆あたたかく迎えてくれたので、まっさらな気持ちで心機一転、楽しく働くことができています。

生田:私も記者という特殊なキャリアで、かつ医療がメディアに関わりたくて、でもMR(医療情報担当者)や営業ではなくて…となると、なかなか見つからず不安がありました。今の仕事には、実は2回応募したんです。最初、転職サイト経由でエントリーしたら、経験と仕事内容が合わないということで断られてしまったんですが、諦めきれなくて直接会社のHPから再応募して内定をいただきました。

「ここだ!」と思って突き進んだのは間違っていなかったんだと感じています。

生活の質が上がって、 心の余裕がある毎日

——愛知に戻ってみて、どうですか？

佐藤:一番うれしいのは、広い部屋に住めること。東京にいた頃は高い家賃で6畳一間。ベッドや他の家具を置いたら身の置き場がなくて、私、生きた心地がしなかったんです。家が自分の居場所だと思えなくて、今みたいに家でゆっくりする習慣がありませんでした(笑)。

生田:東京で部屋のグレードを上げようとすると月15万円以上のお金がかかるんですね。私も部屋の面では、自動湯沸かし器付きのお風呂がある綺麗な部屋に住みたいという希望がかなわず、生活する上での心の余裕が得られないことが悲しかった。Uターンしたら、その時より安い家賃で広い部屋に住めて、お風呂もゆったり。涙が出そうなほどうれしかったです!

佐藤:Uターンして部屋が広くなったことで、友達を呼びやすくなりました。今は自分の家でみんなと飲むのが至福の時間です。

生田:いろんな意味で住環境って大事ですよね。私は仕事をするのが好きなタイプの人間だから、仕事中心に回る生活がいいと思ってはいたけれど、それでもほっとする場所があるというだけで、仕事のモチベーションがだいぶ違います。

佐藤:東京では家に居つかない代わりにカフェで仕事をしたりするお茶代や、飲み会、タクシー代の支出が多かったけど、それが減ってお金が貯まるようになりました(笑)。

生田:愛知は、ワークライフバランスが取れているのが「普通」という風土があるように感じます。私もオンとオフをきちんと切り替えることを意識し、できるだけ家で夕飯を作って食べるように心掛けています。収入と支出のバランスも無理なく生活できるから東京の時より貯金は増えています(笑)。

——毎日の過ごし方は変わりましたか？

生田:今は車通勤なんですけど、通勤中に河川敷や川沿いの緑がたくさんある景色を見ると落ち着きます。休日は甥っ子和東山動物園に行ったり、最近では西尾市の幡豆海岸までドライブして、テレビでも話題になっていたおしゃれなカフェに行ったりもしました。愛知は少し移動するだけで自然豊かな場所があって、リラックスできるんですよね。



佐藤:私は通勤時間帯の満員電車から解放されたことがうれしい。今は徒歩通勤だから、リラックスした気持ちで出社できます。休日は菜によく行くんですが、ホットヨガスタジオも、NYの最先端フィットネスが体験できるジムもあるし、買い物をする場所も集約されているから徒歩移動でも快適なんです。

生田:私も名古屋市内の池下や高岳あたりで新しいお店を開拓するという“街”の楽しみも満喫しています。愛知は、自然も都会的なものも、バランスよくあるのいいですよね。

佐藤:私、知多半島の先にある日間賀島もお気に入り、夏にはタコ料理を食べながら一日をのんびり過ごしたりして楽しんでいます。

Uターン同士での結婚や、地元友人との再会も

——地元に戻ったことは、人生のどんな転機になりましたか？

生田:実は、転職する直前の有休消化中に、前職の先輩だった男性と再会して結婚に至りました。彼は私より先にUターンして愛知で働いていたので、話を聞きに行ったのがきっかけです。それまで婚活しても上手くいかずに悩んでいたのに、まさかUターンによってこんなに人生が好転するなんて思ってもみませんでした。

佐藤:ドラマチックな展開でうらやましい〜！きっと、人生をいい方向に変えようと思って動いたからこそ、得られた結果ですよね。

生田:転職も初めてで、ちゃんと希望する会社が見つかるのか不安だったのですが、「ここだ」と感じた方に突き進んだら、無事、自分のキャリアを生かせる会社に出会えて。それで「自分の判断を信じていいんだ」って思えるようになりました。動き出してみたら意外に「なるようになるんだ」って感じなんです。

佐藤:私は名古屋に帰ってきたことで、疎遠だった友人たちとまた会うようになりました。愛知出身の人って愛知が好きって人が多い

から、お互いに親近感を持ちやすくてすぐ仲良くなれることが多いと感じています。恋愛も、東京で10人と出会うより愛知で1人と出会ったほうが価値があるって、最近では感じますね。

愛知は、これからの自分を輝かせる場所

——お2人にとって、Uターンとは？

佐藤:チャレンジであり、自分らしく生きる道。東京にいた時より今の方がとても自分らしいと思っています。心が勝手に生き生きとしてくるんです！私の場合、東京にいた頃は1人でいると孤独や不安を強く感じるが多かったのですが、今は1人でいても平気。自分らしくいられて、全部をポジティブに感じます。

生田:私もキーワードは佐藤さんと同じで、「もう一度自分らしく」っていう言葉が浮かんできます。自分らしくっていうのは自分の心に素直にっていう意味です。東京からのUターンは都落ちって感じる人もいるようですけど、私は東京だけが優れているわけじゃないって実感しています。

佐藤:そうなんですよ。愛知は大きな企業が多いだけでなく、その企業を支える優れた会社もたくさんあるから、愛知へのUターンをなんとなくでも考えている人は、是非調べてみてほしい！

生田:先日、東京時代の先輩に会って、顔つきも顔色もよくなったねって言われたんです。仕事で価値を生み出せているから、という理由もあるんですけど、一番は住み慣れた地元で再スタートできたからだと思います。最初はうまくいなくても、諦めなければ自分次第でプラスにできるので、まずは情報収集をしたり、少しでも動いてみるのがコツだと思います。愛知はいろんな発見がありますよね。

文／木村望(広瀬企画)

構成／竹内葉子(トレスクリエイト)

写真／西澤智子

愛知の住みやすさは、
ここがポイント！



ゆとりある住まい

愛知の住宅の敷地面積は東京の約1.8倍。また、1人あたりの住宅の量数(居住室)は、持ち家で1.5量ほど、借家で0.7量ほど東京より広く、居住空間にゆとりがあります。

※総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査結果」「平成30年住宅・土地統計調査結果」

物価が安い

愛知の消費者物価地域差指数は98.3(全国平均=100)。東京の102.7を大きく下回り、全国的にみても低い物価水準です。

※総務省統計局「小売物価統計調査(構造編)結果」(2018年)

ラッシュ時の混雑が緩やか

名古屋圏は、鉄道主要区間のピーク時混雑率(※)が東京圏よりも緩やかです。(※名古屋圏132% 東京圏163%)

※国土交通省「都市鉄道の混雑率調査」(2018年度)

魅力が高まる愛知

リニア開通に向けて、商業・文化・娯楽施設などの集積が進む名古屋の中心部や、2022年秋の開業を目指す「ジブリパーク」など、愛知の魅力はますます高まっています。



「#一番住みたい愛知SNSフォトコンテスト2019」入賞作品

愛知の素敵なヒト・モノ・コト・バシヨの写真を投稿していただいたフォトコンテストの優秀作品をご紹介します!



日常部門



金賞

「名鉄電車と水溜りに映える姉弟」

アカウント:@japan_umiさん

《撮影場所》 知多郡阿久比町

●受賞者コメント

雨上がりの澄んだ日、名鉄坂部駅付近で名鉄電車を眺めに行きました。赤い電車やシルバーの電車…色々な電車が行き交う中なので子ども達も夢中で好きな電車を見てました。足元に残っている水溜りへカメラを構えるとまた別の世界の様に映し出されてその場の世界を一変してくれます。

●審査員コメント

とても素晴らしい作品だと思います。子どもたちの服の色と名鉄電車の色、奥に見える鉄塔の色が同じなのとても秀逸に考えられていると思いました。

銀賞

「はじめての七夕まつり」

アカウント:@tomorigotoさん

《撮影場所》

一宮市 一宮七夕まつり

●審査員コメント

女の子の表情がたまらなく可愛くて、いい作品です。子どもはよく動かし、案外撮影するのが難しいのですが、その一瞬を見逃さず可愛い表情が撮れているのが素晴らしいです。



銅賞

「満開の笑顔」

アカウント:@_____misa.hさん

《撮影場所》

知多郡南知多町 観光農園花ひろば

●審査員コメント

この作品は本当に観ていて幸せな気持ちにさせてくれるとても素敵な作品だと感じました。



招き猫賞



「出番待ち」

アカウント:@yuji.a2さん

《撮影場所》

津島市

●審査員コメント

お面の中から女の人のしっかりとした意識を感じることができる作品です。素晴らしい作品です。



「またね」

アカウント:@1019_cocoさん

《撮影場所》

豊田市 三河広瀬駅

●審査員コメント

人の愛らしい仕草が写真のハイキーなトーンと、とてもマッチしていて素敵です。



「初めての神社に大興奮」

アカウント:@hiropy_hmhさん

《撮影場所》

名古屋市 別小江(わけおえ)神社

●審査員コメント

手水舎の色とりどりの菊の花や風車が女の子の可愛らしさを引き立たせていて、いいと思います。

キャリアも子育ても「ちょうどいい街」で充実！ ～東京から愛知へ移って分かったこと～

ずっとキャリアを積み上げたいけれど、「結婚や夫の転勤で違う土地へ行くことになったら?」、「新しく住む地域には、やりがいのある仕事をしながら子育てもしっかり両立できる環境ってあるの?」、働く女性にはそんな悩みも尽きないもの。東京から愛知へ移り住み、『本社部門で働く社員』として、『新規事業を立ち上げる起業家』として、自分を活かして働く2人のママに実情を聞きました。



株式会社Lii

廣瀬あゆみさん

1989年生まれ。大阪府出身。東京の大手通信企業でマーケティング職として勤務した後、結婚を機に愛知県へ移住。教育関連の企業で新規事業立ち上げに携わり、介護のベンチャー企業でブランディング職を経験。2018年、採用ブランディング・人材育成・介護を中心とした人材紹介業の会社を仲間と立ち上げ、子育てしながら代表取締役として会社を経営するパワフルウーマン。休日には親子で水族館や動物園などテーマパークに出掛けたり、近所の銭湯でのんびり過ごしたり(インタビュー時は第2子妊娠中)。

アイカ工業株式会社

押上桃子さん

1984年生まれ。東京都出身。都内の大学を卒業後、同社へ入社。東京オフィスで営業職として勤務した後、同僚である夫の愛知県への転勤を機に結婚し、自らも愛知県へ転勤。2度の産休・育休・復職を経験し、2人の子どもを育てながら勤務。現在は経営企画部に所属し、経営企画や広報、CSRなどを担当。週末は車好きの夫や子どもと愛知県の知多半島や三重県、岐阜県などへドライブに行くのが楽しみの1つ。

東京から結婚・転勤などで愛知へ。
実際に暮らして感じたことは？

——押上さんは東京出身、廣瀬さんは大阪出身で、始めはそれぞれ東京に勤務。愛知にはそれまで縁がなかったかもしれませんが、住むことに不安はありましたか？

押上: 本社が愛知なので、入社時の研修で1か月くらい住んでいたんです。夫が愛知出身で土地勘もあるし、それほど不安はありませんでした。ただ、それまで東京しか知らなかったの、落ち着いた街だな、と。

廣瀬: 私は夫がずっと愛知にいたので、東京勤務の時は遠距離恋愛で週末などに遊びに来ていました。自然が身近にあるし、東京ほど人が多くないのがいいなと思っていました。東京では通勤電車のあまりの混雑に耐えられず、自宅から10kmの職場まで自転車で通っていたので、愛知のその混雑のなさは魅力的。「早く愛知に住みたい、早くプロポーズしてくれないかな」ってずっと思っていたんです(笑)。

——実際に愛知に来てみて、住みやすさはどうですか？

押上: 最初は私自身に土地勘がなくて、どこにどんな店があるのか分からず戸惑ったりしましたが、慣れてくるとすごく便利!「あのエリアに行けば、欲しいものが全部揃う」といったコンパクトな距離に店が集まっているのがうれしいです!

廣瀬: 分かります!

押上: また、子育てするようになってより感じますが、どこに行っても人が密集している状況から解放されたのがすごく大きいです。街中にも子連れで躊躇なくお出掛けできるし、渋滞も少ない。「深呼吸できる〜!」という気持ちです。

廣瀬: 私は市内に分譲マンションを購入したのですが、東京に住んでいたなら郊外でもとてもこの金額では買えなかったと思います。暮らすのにかかる費用が安いですね。また、

人も多すぎず街も近いから、起業する場所としてもポテンシャルが高いと思います。いろいろな面で「ちょうどいい場所」だと実感していますね。

愛知に本社がある企業は、
キャリアアップの狙い目!?

——押上さんは愛知に転勤して、営業職から離れたんです。

押上: はい。弊社の場合、愛知以外のエリアはほとんど営業職だけで、本社機能は愛知に集約しているんです。愛知に来てから、技術部、営業職、経営企画部と、様々な部署を経験しました。だからこそ得たものがたくさんありました。会社が急速にグローバル化しているので、今携わっているCSRの仕事でも英語を使う機会が増えてきました。「英語を身につけたい」と思うようになったのは、自分自身のスキルアップにプラスになっていると思います。

——愛知はモノづくり産業を中心とした世界有数の産業集積地で、グローバルな企業も多いんですね。

押上: そういった中で、私も通訳を介さず自分の言葉で海外のグループ会社の人とコミュニケーションをとりたくて、会社の制度を利用してスカイプで英会話を学んでいました。英語に負い目を感じてコミュニケーションで一步引いてしまうのはもったいないので。

廣瀬: 会社員として大きな仕事に携わりたい人は、愛知に本社がある大手企業を選ぶと可能性が広がりますよね。実は、職種の選択肢も多いし、住みやすいから、仕事やスキルアップのための学びに時間が使える!かなり狙い目じゃないでしょうか。

愛知で「起業」。
事業の実現しやすさは？

——廣瀬さんは愛知に来てから起業したん

です。愛知で起業することへのハードルはありましたか？

廣瀬: 愛知に来てから働いた2社目のベンチャー企業が自由な社風で、企業で働きながら起業している人が結構いたんです。なので私自身、起業へのハードルはあまり感じていませんでした。

押上: 愛知にも枠にとらわれない働き方をしている人がいるんですね。

廣瀬: ただ、愛知は良くも悪くも閉鎖的なところがあるのも実感しました。そこに名の知らない新参者がアプローチをかけていくことはもちろん簡単なことではなかったのですが、一度、中に飛び込んで人とつながると、皆さん、いろいろな人を紹介してくれて、応援してくれる。人情に厚くてやさしいんです。

押上: ああ、それはあるかもしれません。

廣瀬: 愛知には新しいビジネスの可能性がいっぱいあると感じています。というのも、東京や大阪には、私みたいな業種や境遇で起業している人が大勢います。でも、愛知では「ママであり妊婦が、起業して新しい事業にトライする」ということを珍しく思ってもらえて、まずはその行動に価値を感じてもらえる。他県での起業も検討しましたが、「愛知はブルーオーシャンかも!」と、改めて愛知に住もうと決めました。

仕事と子育てを両立できているのは「通勤時間の短さ」が大きい!

——愛知での仕事と子育ての両立はどうですか？

押上: 2018年の3月半ばに名古屋市内で引っ越したのですが、そのタイミングでの保育園の転園が難しく、2週間くらいはもともと住んでいた家の近くの保育園に通わせていたんです。通勤時間でもそこまで道が混むことがないし、車で行き来して出勤に影響がなかったことに助かりました。愛知での子育ては「車が使え」「電車移動もラク」というの

が大きいですね。今は朝、保育園に子どもを送ってから地下鉄に乗り、会社の最寄駅まで乗り換えなしで20分。東京にいた時は1時間40分かけて通勤していたので、帰りは定時で退社しても家に着くと20時近く。子育てはもちろん、結婚生活も想像がつかなかったです。

廣瀬:今は名古屋市内に住んでいますが、市内のどこで打合せがあったとしても、子どもの保育園の送り迎えを含めても片道1時間以内で行き帰りできます。起業して1年目はすごく忙しかったんですが、ほぼフルタイムで働いていたのは名古屋だったからこそ。東京のように通勤に時間や体力が必要だと、仕事に費やせる時間をもっと少なかったと思います。

押上:愛知だと、会社帰りに子どもを連れてスーパーで夕食の買い物をするのもラク。混み合っている東京では考えられませんでした…(笑)。

「車でふらっとドライブ」も愛知だからこそ。夫婦でオフを満喫。

——プライベートはどのように過ごしていますか？

廣瀬:休日に出掛けても東京ほど混んでいないのがうれしい。我が家は「名古屋港水族館」と「東山動植物園」の年間パスポートを持っているんですが、車でふらっと出掛けてショーだけ見て帰る…なんてことも気軽にで



廣瀬さんファミリーは、桜も楽しめる犬山市の「日本モンキーパーク」でパチリ

きちゃうので、すごく重宝しています。

押上:確かに！うちは「とだがわこどもランド」にもよく行きます。無料で入れて、あれほどの遊具の充実ぶりに最初は驚きました。三重や岐阜にも近いので、伊勢神宮に行ったり、高山に行ったりも。夫が車好きなので、名古屋に来て車で出掛けられるようになったり、家の敷地内の駐車場で車の手入れをしたりと、夫も愛知での暮らしを楽しんでいます。



押上さんと娘さんたちの緑ゆたかな伊勢神宮でのワンシーン

廣瀬:うちは夫も私もアウトドア好き。ワンシーズンに2、3回はキャンプに行くんですが、岐阜まで少しドライブするだけで、無料で利用できるキャンプ場が充実していてうれしいですね。無料でも整備されていてトイレなど水回りもキレイなんです。

押上:のびのびとした環境や通勤ストレスの少なさも相まって、夫は家事や子育てにも積極的。愛知でのこの環境があるからこそ、なのかもしれません。

文／広瀬良子(広瀬企画)

構成／竹内葉子(トレスクリエイト)

写真／西澤智子

愛知の「仕事と子育て」 注目データ



活用できる時間が 多い

通勤時間は東京より1日あたり30分以上短く、活用できる時間が年間100時間以上も多い。

※出典:総務省統計局「平成30年住宅・土地統計調査結果」

待機児童数が 少ない

愛知の保育所等待機児童数は、東京の約1/14。

※出典:厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」(2019年4月)

キャンプや スポーツが盛ん

愛知は、キャンプする人の割合が全国2位。スポーツする人の割合は全国6位。

※出典:総務省統計局「平成28年社会生活基本調査結果」

大学が充実

愛知の大学立地数は、国公立50大学で全国3位。名古屋大学はノーベル賞受賞者を6名も輩出。

※出典:文部科学省「学校基本調査」(2019年度(速報))から算出



「#一番住みたい愛知SNSフォトコンテスト2019」入賞作品

愛知の素敵なヒト・モノ・コト・バシヨの写真を投稿していただいたフォトコンテストの優秀作品をご紹介します!



食 部 門



金 賞

「2人だともっと美味しいね」

アカウント:@nekoyann0929さん

《撮影場所》豊田市足助町 香嵐渓

●受賞者コメント

五平餅を仲良く半分こして食べた2人\(^^\)/みそが口の周りについては大笑いして食べていました!やっぱり2人だと美味しく楽しいね!

●審査員コメント

子どもたちの五平餅を頬張って食べている、自然な表情の切り取り方がとても素晴らしいです。背景のポケケも2人を引き立てていてシンプルで良かったです。何より一番良かったところは、2人の表情がとても可愛かったことです。



銀 賞

「トマト氷」

アカウント:@10asrmmc14さん

《撮影場所》

名古屋市 café SabuHiro

●審査員コメント

カフェの店内で撮影されていると思うのですが、光の入る窓際の席で自然光を活かして撮影されていて、とても美味しそうに撮れていると思います。寄って撮影しているので、インパクトがあまり面白と感じました。



銅 賞

「サプライズの『王様のまるごとメロン!』」

アカウント:

@hiroikum_0610_sorasoraさん

《撮影場所》

自宅

(大府市「洋菓子チロリヤン」のケーキ)

●審査員コメント

この作品から幸せを、少しおすそ分けしてもらいました。家族の優しさが伝わってくる素敵な作品でした。

招き猫賞



「朝採れいちじく」

アカウント:@kanaeeyhsaさん

《撮影場所》

安城市

●審査員コメント

いちじくに当たっている光がとてもキレイで素敵な写真だと思います。



「おいしいたんころりん。」

アカウント:@aco.__photoさん

《撮影場所》

豊田市足助町

●審査員コメント

作品から夏の終わりを感じ、温かくもあり少し寂しい様な哀愁を感じました。



「スロウに流れるひと時」

アカウント:@powder_snow_akiさん

《撮影場所》

名古屋市 コンパル メイチカ店

●審査員コメント

昔ながらの良き名古屋のモーニング文化を切り取った素敵な作品だと思います。

「#一番住みたい愛知SNSフォトコンテスト」入賞作品の紹介

2018年度に開催された第1回のフォトコンテストの作品を一挙にご紹介します!

グランプリ



「夏空のブランコ」

アカウント:@miki_yururuさん

《撮影場所》南知多町 日間賀島

とてもお天気が良くて、夏の青い空にブランコに乗る娘が可愛くて連写で撮影しました。
ブランコは崖の上にあるので、怖がってしまうためブランコは少ししか揺らしていません。

金賞



「幸せに続く紅い道」 アカウント:@takoyaki0118さん

《撮影場所》半田市岩滑西町 矢勝川



「一目惚れ」 アカウント:@hagirocksさん

《撮影場所》豊田市 つどの丘

銀賞



「Straight eyes.」

アカウント:@je2016suisさん

《撮影場所》田原市 太平洋ロングビーチ



「舞い降りた宇宙船」

アカウント:@yuji2001316さん

《撮影場所》名古屋市東区 愛知芸術文化センター11階展望回廊

銅賞



「夜空の彩」

アカウント:@sproof7627さん
 《撮影場所》刈谷市 刈谷市総合運動公園



「夏の思い出」

アカウント:@n.piroshiさん
 《撮影場所》美浜町 野間埼灯台



「早朝の岩が池」

アカウント:@kariyanotaicyanさん
 《撮影場所》刈谷市東境町 刈谷ハイウェイオアシス付近

招き猫賞



「秋の千枚田」

アカウント:@kinusara_photoさん
 《撮影場所》新城市 四谷



「ハートの絵馬で縁結び♡」

アカウント:@aco._photoさん
 《撮影場所》犬山市 三光稲荷神社



「圧巻の時代絵巻～三河一色大提灯まつり～」

アカウント:@yazhijさん
 《撮影場所》西尾市一色町



「願いよ 届け」

アカウント:@guren375さん
 《撮影場所》南知多町 つぶて浦



「食べ歩き日和」

アカウント:@sonamoonさん
 《撮影場所》犬山市 犬山城下町



「城華やぐ」

アカウント:@ganco5050さん
 《撮影場所》犬山市 犬山城周辺



「係留中」

アカウント:@ina.naoyaさん
 《撮影場所》蒲郡市形原町 形原漁港



「馬と牛…ご苦労さまでした。」

アカウント:@884kikiさん
 《撮影場所》豊根村 三沢下地付近の古真立川



「音と見た目でマイナス2℃」

アカウント:@yamatomo121さん
 《撮影場所》豊田市 増福寺



「奉納花火」

アカウント:@sa321starさん
 《撮影場所》豊橋市 松葉公園

「都市」と「自然」のバランスの
 良さや、文化や歴史の風情が残る
 「愛知の住みやすさ」が感じられる
 作品ばかりですね!



LINEの友だち追加は、
ID検索もしくはこちらの
QRコードから



あいちUIJターン支援センター

窓口での個別相談や、就職に役立つイベントの開催など、愛知県へのUIJターンを希望する方をサポートしています。お気軽にご相談ください。

センターでは、LINEの公式アカウント(ID:@659hapgr)からお役立ち情報を配信中!
まずは「友だち追加」で登録を!

〈 問合せ先 〉 愛知県労働局就業促進課 052-954-6366(ダイヤルイン)



「愛知の魅力つぶやき隊」のメンバーを募集しています!

愛知の魅力つぶやき隊は、「住みやすさ」などの愛知の魅力を、Twitter、Facebook、Instagram、LINEなどのSNSで「#愛知の魅力つぶやき隊」を付けて投稿するだけ。年齢も居住地も問わないので、どなたでも気軽に参加していただけます! 詳しい情報や参加方法は、「愛知の住みやすさ発信サイト」からご確認ください。



「SDGs未来都市」について

愛知県は、2019年7月に内閣府から「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、経済・社会・環境面で調和のとれた、活力と持続力を兼ね備えた大都市圏を目指し、地域を挙げてSDGs達成に資する取組を行っています。

「SDGs未来都市」についてはこちら▶



ロゴマークの由来

愛知県が常滑焼や瀬戸焼などの「招き猫」について日本一の生産地となっていることにちなみ、愛知県の形をした猫が左手で手招きしている姿を図案化しました。このロゴマークには、愛知県に住む人を数多く招き入れたいとのメッセージが込められています。

冊子についてのお問い合わせ

愛知県政策企画局企画調整部企画課 〈TEL〉052-954-6089

＼ 愛知の住みやすさ発信サイトはこちら /

愛知の住みやすさ発信サイト

検索

